



2013 年度 中小製造企業重点分野海外販路開拓支援事業「MOBILE World Congress 2014」参加報告書

会 期:2014年2月24日(月)~2月27日(木)

開催地 : スペイン・バルセロナ

会 場: Fira (Barcelona) Gran Via

日本貿易振興機構(ジェトロ)

機械・環境産業部 機械・環境産業企画課

【目 次】

Ι	参加概要	2
	1. 参加の経緯	2
	2. 展示会概要	2
	3. ジャパンパビリオン概要	2
	4. ジャパンパビリオン出展者リスト	3
Π	[.開催準備	4
	1. 出展勧誘	4
	2. 出展者説明会	4
	3. 展示装飾	4
Ш	I. 現地業務・イベント	4
	1. 会場・主催者全体スケジュール	4
	2. 現地イベント	4
	3. 現地事務局体制	4
π7	7. マン 4. 1 = 1 未 4. 日	-
ΙV	7. アンケート調査結果	
	1. 会期中の成果	
	2. 総合アンケート	5
v	7. 総評	9
•	1. 展示会総評	
	2. ジャパンパビリオン	
	3. 課題と対策	
	5. 环医(2) 不	
V	7. 関連資料	11
	1. 記録写真	11
	2. 報道資料	12
	3. 会場全体図	13
	4. 会場レイアウト図	13
	5. ジャパンパビリオンレイアウト図	

I. 参加概要

1. 参加の経緯

「MOBILE World Congress 2014」は、スペイン・バルセロナにて開催される世界最大のモバイル関連 見本市。モバイル産業はスマートフォンの普及により、関連技術が急速なボーダレス・標準化を迎え る中、同産業の潮流を踏まえると、国内中小企業(ベンチャー企業)のグローバルな活躍が期待できる 産業である一方、依然として海外展開に向けた活動経験が少ない企業が多いことから、ジェトロによ るビジネス支援を実施していくことが有効であると思料し、同業界における新たな海外販路開拓を目 指す国内中小企業等に向けた支援を実施すべく、今回出展支援を行った。

2. 展示会概要

(1)展示会名: MOBILE World Congress 2014

(2)会 期: 2014年2月24日(月)~27日(木) <4日間>

(3) 開催地: スペイン・バルセロナ

(4)会 場: Fira (Barcelona) Gran Via

(5)対象出展物:移動通信分野全般

(6)主 催 者: GSM Association; GSMA Limited

(7)出 展 者 数: 1,800 社以上

(8)来 場 者 数: 85,916人

3. ジャパンロボットブース概要

(1)参加規模: 126 m²(Hall8.1 F41)

(2)内 容: ①商業ブース: 70 ㎡ (12 社/14 小間)

②広報ブース: 56 ㎡

(3)出展対象物: モバイル関連機器・技術全般

(4)出 展 者 数: 12社

(5)出展料(不課税):

	中小企業	一 般	復興促進商業ブース
6 ㎡(囲み型ブース)	760,000 円	1,140,000 円	無料
4 ㎡(パネル型ブース)	485,000 円	727,000 円	無料

(6)出展料に含まれる経費・サービス:

- ・統一デザインによる小間の設営・基本装飾
- ・入場パス(出展者パス7枚・ゴールドパス1枚/1小間)
- ・ジャパンパビリオン出展者ダイレクトリー(ジェトロ作成)への掲載
- ・第三者賠償責任(Public Liability)保険

(7)ブースに付帯される基本備品

Nº	基本備品	数量	
IN≌	基 中	6 ㎡囲み型	4 ㎡パネル型
1	受付台(展示台) (幅 100cm×奥行 45cm×高さ 100cm)	1	1
3	折畳み椅子	3	_
4	バースツール	1	1
5	ゴミ箱	1	1
6	スポットライト(各 100W)	3	2
7	単相コンセント(16amp,230v,50Hz)	1	1
8	有線インターネット	1	1
9	液晶モニター	_	1

4. ジャパンパビリオン出展者リスト

	出展企業名	所在地	主な出展内容
1	株式会社 ANALOG TWELVE	東京都	iBeacon を活用したスマートフォン向けプロモーション
		千代田区	ツール
2	株式会社ブリリアントサービ	大阪府	ウェアラブルコンピューティングに特化した OS
	ス	大阪市	
3	フェリカネットワークス株式会	東京都	携帯電話向け非接触 IC チップ(NFC チップ)、及び関
	社	品川区	連ソリューション
4	株式会社ジーアイテック	青森県	BI ツールおよび農業システム
		八戸市	
5	HAYABUSA 株式会社	沖縄県	HAYABUSA Security
		名護市	HAYABUSA Robot
6	Kauli 株式会社	東京都	オンライン広告配信プラットフォーム
		渋谷区	
7	アシアル株式会社	東京都	モバイルアプリケーション開発プラットフォーム
		文京区	「Monaca」
8	長瀬産業株式会社	東京都	TCAM Evaluation System
		中央区	TCAM NIC board for NFV and SDN
9	ピーアールピー株式会社	東京都	クラウドシステムを利用した遠隔インターフェース「Hyper
		新宿区	System」およびディスプレイがペンに変わる新概念 HMD
10	クエリーアイ株式会社	愛知県	スマートフォン・アプリ用マーケティング分析システム
		名古屋市	「QuerySeeker Analyze」
11	株式会社ビーマップ	東京都	スマートフォン向けプッシュ配信ソリューション「スマー
		千代田区	トプッシュ」
12	株式会社ウルトラエックス	東京都	スマートフォンデータ消去ツール、スマートフォン検品ツール
		千代田区	キャラクタアバター型電子掲示板

Ⅱ. 開催準備

1. 出展勧誘

スマートフォン&モバイル EXPO 春(5月8日~10日開催@東京ビックサイト)にて出展企業へ本展示会の広報を行った。事前に出展に関する問い合わせがあった企業等に対し、電話やメールでの出展勧誘を行った。このほか出展募集情報をジェトロウェブサイト(イベント情報)へ掲載した。

募集期間: 2013 年 8 月 20 日(火)~2013 年 9 月 6 日(金)

2. 出展者説明会

出展者向けに出展者説明会を開催し、出展者マニュアルを中心として出展手続きや提出書類の説明を行った。

開催日時:2013年10月30日(水)

開催場所:ジェトロ東京 5階D会議室

参加人数:20名

3. 展示装飾

ジャパン・パビリオンの設計業務を東京インターナショナル・プランニング株式会社に委託した。同社が 作成した設計図書に基づき施工業者の選定を行い、GROUP INTERMEDIO 社にかかる業務を委託した。

Ⅲ. 現地業務・イベント

1. 会場・主催者全体スケジュール

2月 22日(土) 10:00~17:00 ジャパンパビリオン設営

2月 23日(日) 10:00~17:00 各出展企業ブース設営

2月 24日(月) 9:00~19:00 展示会会期(1日目)

2月 25日(火) 9:00~19:00 展示会会期(2日目)

2月 26日(水) 9:00~19:00 展示会会期(3日目)

2月 27日(木) 9:00~16:00 展示会会期(4日目)

16:00~20:00 ブース撤去、一般貨物搬出

2. 現地イベント

会期前日のブース設営作業終了後、バルセロナ市の協力により市内のスマート・シティ関連施設等を 視察するツアーを開催した。

·開催日時: 2014年2月23日(日) 17:30~20:00

・視察地: バルセロナ市インキュベーション施設等

·参加者数: 18 名

3. 現地事務局体制

会期中は、ジェトロ東京本部 2 名、マドリード事務所 1 名、ロンドン事務所 1 名の計 4 名が出展者対応 等の業務を行った。

【ジェトロ・東京本部】

機械・環境産業企画課 美留町 邦昭

機械・環境産業企画課 中山 貴弘

【ジェトロ・マドリード事務所】

所員 Josericardo Manueco

【ジェトロ・ロンドン事務所】

次長 村上 久

Ⅳ. アンケート調査結果

1. 会期中の成果

(1) 商談件数: 1,499件

(2)成約見込み件数: 109件

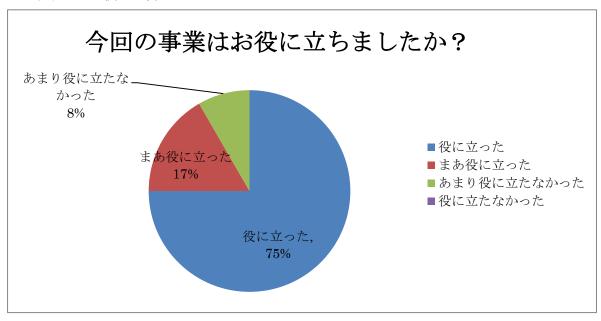
(3)成約見込み金額: 97,300 千円以上

2. 総合アンケート

(1)本事業のお役立ち度: 91.7%(4 段階の上位 2 段階の割合)

※本展示会の参加に対して、役に立った・まあ役に立った・あまり役に立たなかった・役に立たなかった、 の4段階から回答する。

<総合的なお役立ち度>



<コメント>

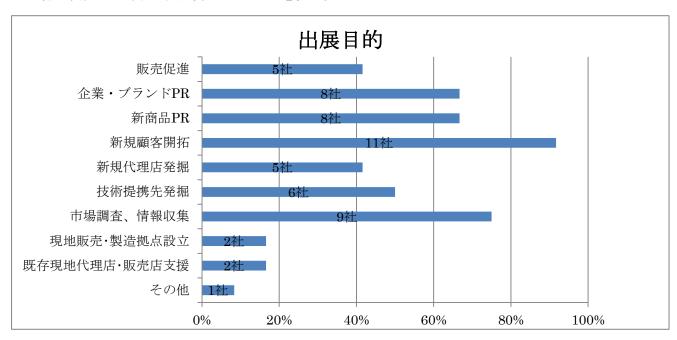
- 見込みのあるビジネスパートナーの開拓をすることができた。
- ・非常に有益な情報・アドバイスがあった。かなり引きが良くポテンシャルを感じた。
- ・自社の海外アピールの場として非常に有効であった。
- ・業界のトッププレイヤーと直接話す機会ができ、リアルタイムの情報を得ることができた。
- ・自社のサービスに対する海外の企業のニーズを感じることができた。また、成約の見込める商談ができた。

・準備から当日までさまざまなサポートを頂くことができ、助かりました。

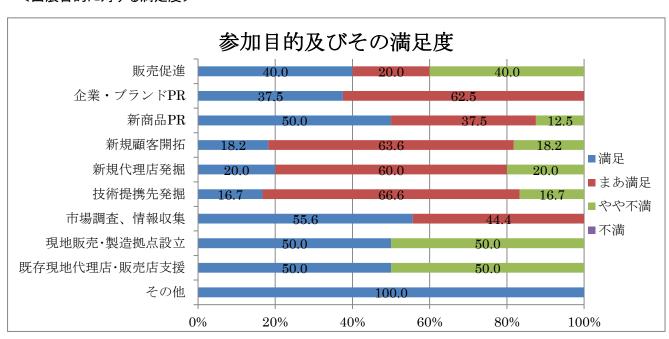
(2)出展目的と目的に対する満足度

<出展目的>

出展企業の最大の出展目的は、「企業・ブランド PR」、「新商品 PR」、「新規顧客開拓」、および「市場調査・情報収集」であった。また、過半数の企業は、「技術提携先発掘」を目的として出展した。なお、各出展目的に対する満足度は以下グラフを参照。

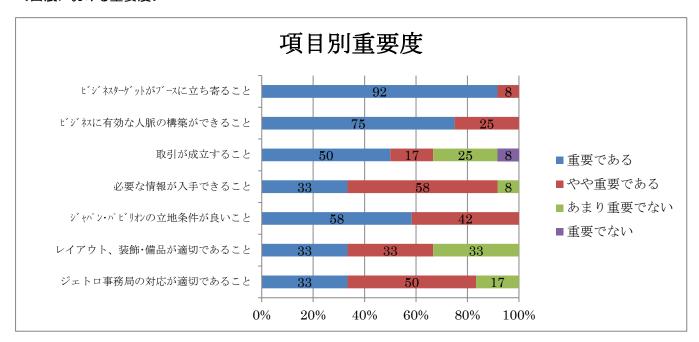


<出展目的に対する満足度>

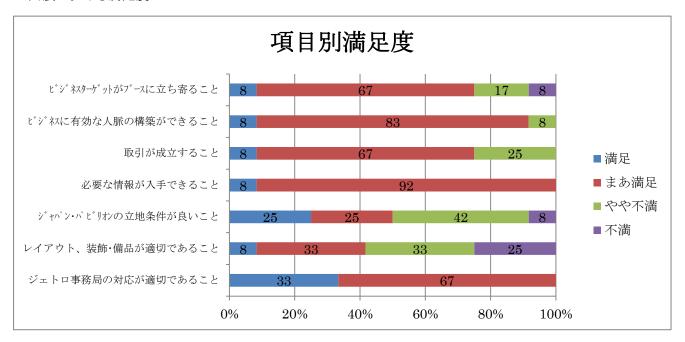


(3)重要度と満足度の関係

<出展における重要度>



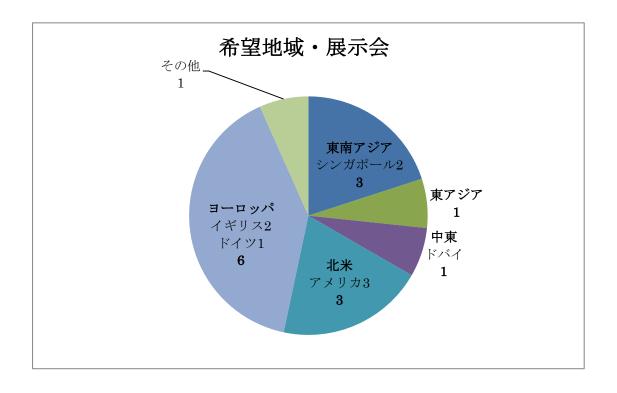
<出展における満足度>



(4) ジャパンロボットブースに出展してよかったと思うこと

- ・スタッフの方に色々とサポート頂けたこと。
- ・同行スタッフの意識を変えることができた。
- ・ブース設営業者等との交渉が不要で、展示に集中できる。
- ・低予算で世界No.1 の展示会に出展できた。日本をターゲットにしている企業が来やすかったと思う。
- ・日本企業であることに信頼をいただけたこと。
- ・海外企業のニーズを知ることができた。

- (5) 出展して気付いた点、国内の展示会との違いなど
 - ・ビジネスターゲットの訪問が多い。
 - ・アポイントの重要性
 - ・開放感、オープンマインドで企業と企業間のコミュニケーションがしやすい。
 - ・情報収集が中心の国内の展示会と違い、具体的な商談をするケースが多かったこと。
- (6)上記(8)に対し、どのような対応をするか。また、ジェトロにどのような対応を期待するか。
 - ・海外展示会等の海外進出、PR の機会と手続きサポート
 - ・海外対して経験がないため、サポートと勉強会をお願いしたい。
 - ・事前・会期中のアポイント準備
 - ・ブース立ち入りがしやすい雰囲気になって欲しい。
- (7)今回の展示会以外でジェトロに取り上げて欲しい展示会および地域(国名)
 - ·IFA
 - ・来年はジェトロでは出展しないと聞いているが、他国の動向を含めJAPANとして出店すべきであり参加したい。
 - ・アメリカ、イギリス、APAC
 - · APPS World London, CES
 - · EU 各国、Singapore
 - · ISE (Integrated Systems Europe), Netherlands
 - ・アメリカ
 - ・ドバイ、シンガポール等



V. 総評

1. 展示会総評

MOBILE World Congressは世界最大のモバイル関連見本市であり、毎年2月にスペイン・バルセロナで開催される。モバイル業界における同見本市のプレゼンスは極めて高く、Apple社・Google社を除く、ほぼすべてのプライム企業が出展し、新製品・新技術をアピールした。

モバイル技術は世界的に見て、数少ない成長分野である。その浮揚の勢いを示すかのように、同見本市は他の産業では見られないほどの盛況を呈した。まず、出展料に関して言えば、スペース料が1平米あたり915ポンドと非常に高額であるにも関わらず、主催者の発表によれば、本年も過去最多の出展者数を記録している。一方、来場者が見本市に参加する場合、プラチナ、ゴールド、シルバー、一般の4種類いずれかを購入する必要がある。最も安い一般パスでも749ユーロ、プラチナパスの価格は約5,000ユーロだ。本展示会の来場者は、出展者数と同様に過去最多を記録し、約85,000人となった。上述のように、本見本市は出展料・入場料ともに非常に高額であり、出展者・来場者ともに極めて質の高い点が特徴である。また、中国や韓国企業の勢いが明確に見て取ることができた。Huawei、レノボ、ZTE、Samsung、LG等が巨大なブースを構えて存在感を誇示していた。日本企業の出展はジャパン・パビリオンの出展企業を含め約30社程度であり、日本企業の劣勢を印象付けた。

2. ジャパン・パビリオン

ジェトロで4回目の出展支援となった今回の MWC は商談件数 1,477 件、成約件数(見込みを含む) 109 件を達成し、当初目標を大幅にクリアした。背景として①世界最大のモバイル関連見本市の注目度は、前評判どおり非常に高く、世界各国から相当数の業界関係者の来場者が会場を訪れたこと、②ヘッドマウントディスプレイ、スマートグラス等、バイヤーの関心を惹きつける体感型の製品・技術の出展が多かったこと、③出展各社がノベルティを事前に用意する等、来場誘致に向けた工夫をしたこと、④主催者の運営するマッチングサイトを利用して、事前に商談のアポイントを取得した上で当日に臨めたこと、等が考えられる。

出展企業の評価(役立ち度)については、4 段階評価、上位 2 項目 91.7%(目標:上位 2 項目 80%以上)と当初の目標は一応、達成したものの、あらかじめ懸念された課題が浮き彫りとなった。 ジャパンパビリオンが出展したホール 8-1はアプリケーション企業が中心となるホールであるが、 今年度は機械・環境産業部で行う事業として、出展対象をモバイル機器・関連技術(ハードウェア製品関連の企業重視)として募集を行った。結果的に申込企業はソフト・ハードほぼ半数ずつとなったものの、ハードよりの企業にとっては、マッチする企業の来場が少なく感じられ、役立ち度に影響したものと考えられる。

3. 課題と対策

・上述の通り、ハードよりの企業の中にはマッチする来場者が少ないと感じた企業があった。過去3ヵ年度、展示事業部が所管した際のジャパン・パビリオン設置位置(ホール8-1:アプリケーション開発企業中心のホール)を引継ぐ形で、今回、機械・環境産業部として出展支援を実施したが、モバイル機器・関連技術(ハードウェア製品関連企業を重視)を主な支援対象と位置づけたことから、必ずしも最適な出展ホールではないと感じさせた面があった。一方で、モバイル機器・ハードウェアが中心の展示ホール内のスペースは常連の大手企業によって完売状態で、新規申し込みに対しては良好な位

置の出展スペースが提供されることは全く期待できない状況であった。

・展示構成・ブース装飾についても反省点が多い結果となった。会場ホール内のメイン通路に面したジャパン・パビリオン内部への入口面が狭い上、通路に面して配置した受付けカウンターの背面壁(企業ロゴ等を掲載)が、パビリオン内の出展企業ブースへの視認性を遮る形となり、パビリオン全体での閉塞感を出す結果となってしまった。モバイル分野の展示会では、オープン形式でスペースを最大限に活用し、パネル型モニターを設置する展示構成とする出展者が多くジャパンパビリオンのような壁面による囲み型ブースは主流でないと感じられた。

・会期中、出展または来場した日本企業から来年度の出展支援を継続してほしい旨の意向が多く寄せられ、世界的なモバイル展示会における出展ニーズの大きさが感じられた。しかし、その継続支援にかかる要望の多くは、モバイルコンテンツ等のアプリケーション開発分野の企業から寄せられるニーズが多く、上述のとおり、機械・機器、ハードウェアを中心とするホールでの良好なスペース確保は困難を極めることから、次回以降、機械・環境産業部が所管して事業継続することは適切でないと感じられた。今後においては、対応部署や出展対象品についての十分な検討が必要であると思料される。

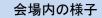
以上

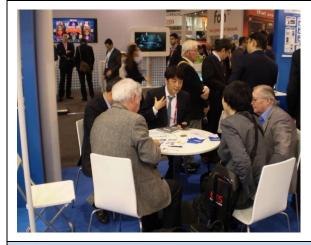
VI. 関連資料

1. 記録写真



ジャパンパビリオン







展示会場外観

他国パビリオン





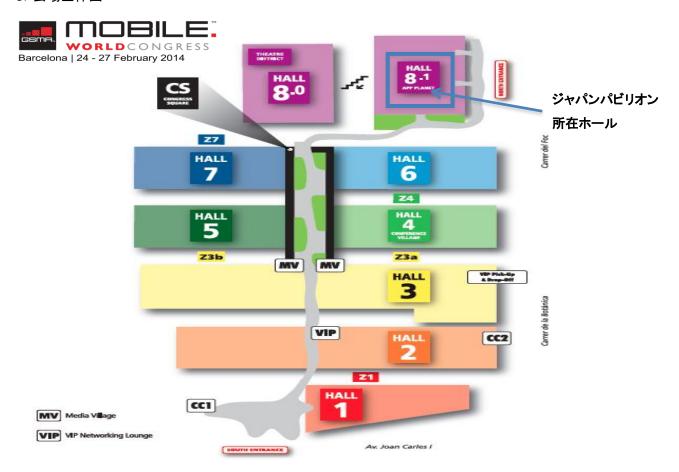
2. 報道資料(一部抜粋)

MWC は世界中のメディアが一斉に集まる場としても有名であり、今年度も、BBC 等の有名メディアが 多数、ジャパンパビリオン出展企業を取り上げた。下記は一部抜粋資料。

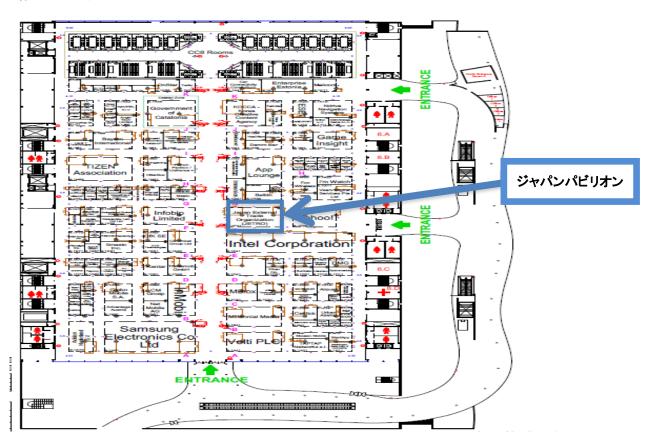
- ・「MWC2014 大阪発のウェアラブル「mirama」・・・新感覚のジャスチャー操作に関心集まる」
 http://www.rbbtoday.com/article/2014/03/06/117594.html
 RBBTODAY
- ・タッチペンとして使える片眼 HMD が登場 (ピーアールピー株式会社)
 http://techon.nikkeibp.co.jp/article/EVENT/20140227/336661/
 2月27日 日経エレクトロニクス Tech-on

.

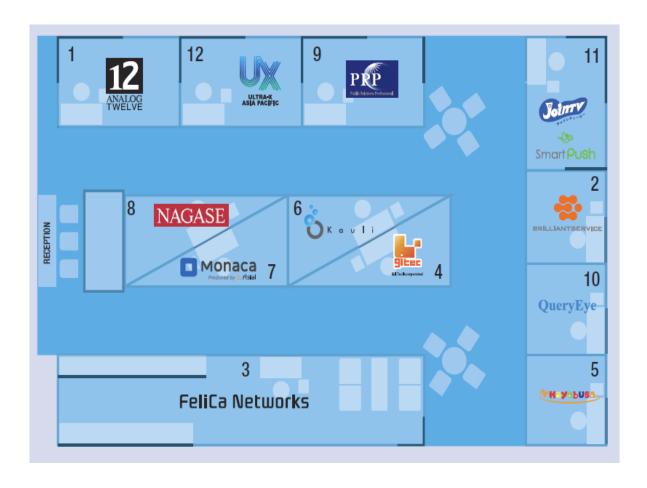
3. 会場全体図



4. 会場レイアウト図(Hall8.1)



5. ジャパンパビリオンブース(レイアウト図概要)





MWC2014 ジャパン・パビリオン報告書 日本貿易振興機構(ジェトロ) 機械・環境産業部 機械・環境産業企画課 〒107-6006 東京都港区赤坂 1-12-32

Copyright(C) 2013 JETRO. All rights reserved

不許複製 禁無断転載 非売品